

変革期に立ち向かう技術力を!



常務取締役

小林 昭二

縁あって塗料業界に身を投じた私が駆け出しの頃、塗料といえば「防錆」と「美装」という二大機能のみを追求する時代でした。それが今や、数ミクロンあるいはそれ以下の薄い塗膜に様々な機能を付与する技術が開発されています。種々の素材に塗料をコーティングすることによって耐久性、耐候性、耐食性等の基本的機能はもとより、化学的、物理的、光学的、電気的、電子的、機械的、生物学的等々の多種多様な機能を付与し、製品の付加価値を高めることができる時代になりました。

塗料の例を挙げるまでもなく、あらゆる科学技術の進歩は、人々の価値観の多様化、即ち"モノ"から、サービスを含む"ココロの満足"への変化と相まって、19世紀の産業革命がもたらした大量生産・大量消費の社会構造を急激に変化させています。

さらに、情報化の進展とともにグローバル化した世界経済の中において、各国の産業構造も否応なくこれに対応して変化を余儀なくされる時代となりました。過去には約220万トンの年間生産量を記録したわが国の塗料業界も、2002年度の国内生産量が180万トンを下回るまでに減少している反面、海外での塗料生産量は年々増加し、今や70万トンに達するといわれております。海外生産移転による国内産業の空洞化、それに伴う技術の流出等、産業構造の変化は今後とも決して楽観を許せるものではありません。

私達は今、まさにあらゆる面で変化の真っ只中にいます。このような変革期を生き抜く最善の道は……。

結論から申しますと、こういう変化の激しい時こそ基本に戻るべきと考えます。すなわち、メーカーたるものは真摯に技術力を磨き、向上させていくしかありません。産業革命以来の大変革の中で活動していることを強く意識しながら、技術面でのコアコンピタンスに目を向け、ユーザーに満足して頂くソリューションに徹していくべきと考えます。

「環境の世紀」といわれる21世紀を迎え、科学技術分野では環境保護、省資源、省エネルギー、高耐久性といった種々の切り口からナノテクノロジー、バイオテクノロジーなどの最先端技術を取り入れた積極的な研究が幅広く進められています。私達塗料メーカーが「地球環境保全」、「資源循環型社会の構築」といった社会的責任を果たしていくためには、安全で地球に優しく、そして市場が真に求める機能性商品をクイックにタイムリーに開発してゆかねばなりません。そのためには、まず私達自身が変化を強く意識し、自らが変化しなければならないのです。そして、これまで培ってきた基盤技術を駆使し、更に先端技術を積極的に採り入れる等、技術の総力を挙げて不退転の決意を持って立ち向かえば、必ず道は開けると信じています。